

# ぶんごわ〜るど

## Bungo World

『ぶんごわ〜るど』は、大分県在住の青年海外協力隊経験者組織である大分県青年海外協力協会の会報誌です。この会報では、主に、協会の活動やOB OG隊員の帰国後の活動の様子、現在海外へ派遣されている隊員からの活動報告を掲載しています。かつて豊後(Bungo)の国と呼ばれていた大分県から世界(World)へ雄飛した若者達の活躍ぶりを是非ご一読ください。

## ウイズ・コロナに向けて一歩、一歩。

一昨年から始まった新型コロナウイルスの感染は、令和4年8月現在では第7派のまただ中で、全国的には毎日20万人近くの新規感染者が報告されていて、週当たりの感染者数では、世界でもいちばん多いような状況になっています。

そのような状況のなかでありながら、社会活動は徐々に再開されて来ており、スポーツや音楽といったイベントの入場制限は緩和され、海外からの入国者も増加してきて、少しずつコロナ前の状態に戻りつつあります。JICA海外協力隊も、一昨年には、すべての派遣国で一時帰国・派遣中止になりましたが、今年の5月には派遣中止になっていた久寿米木咲季さんがジブチに出発され（別記事の活動報告をご覧ください）、また、11月には、派遣再開後に応募した初めての隊員が派遣される予定です。

当協会でも、令和4年5月29日(日)に令和4年度の定期総会を、実参加とオンライン参加を交えた形で開催しました。今回の定期総会では、前年とは異なり、大分県企画振興部国際政策課、国際協力機構

九州センター、JOCA青年海外協力協会からも多くの来賓にご出席いただきました。総会後には、自由討論の場を設け、OB会活動について大いに夢を語る事ができました。やはり、討論は対面で行った方が盛り上がります。閉会後には有志で一献を傾け、ひとときコロナ前の生活を思い出すことができました。

令和4年8月21日には、日出町系が浜でバーベキュー大会を開催しました。これは、普段OB会活動に参加しにくい子育て世代のOB・OGに参加してもらおうと昨年から企画していたものですが、昨年はコロナで延期となり（延期後、国際交流バーベキュー大会になったのは別記事の通りです）、2年越しの夏休みバーベキュー大会となりました。元料理隊員が繰り出す、チミチュリソース（パラグアイ）のシュラスコ、スリランカ風スパイスチキン、BBQポーク、チキンビリヤニ（南インド炊き込みご飯）と言ったOB会ならではのバーベキューや、参加OGが作ったソムナム（青パパイアのサラダ）を参加者全員で堪



ハイブリッドでの総会を実施



おとなも子供もカンパニー!!

能することができました。そのあとは潮が引いた干潟に出て、子供たちとカニ取りをし、夏の終わりの海を一日いっぱい楽しむことができました。閉会になったころには、潮も満ちて来て、さらに海水浴を楽しんだ家族もいたようです。来年も開催してまた一つおにいさん、おねえさんになった子供たちに再会できればいいと思いました。



タイの街角のような光景現る！

※※

## ジブチからの隊員活動報告

2019年度3次隊（2022年5月再派遣）

ジブチ 青少年活動 **久寿米木 咲季**

Enchanté!!（フランス語で“はじめまして”）

2022年5月より、ジブチ共和国に派遣中の久寿米木咲季（くすめぎさき）と申します。今回は私のジブチでの活動の様子をお伝えします。

まずジブチ共和国について説明します。東アフリカの「アフリカの角」と呼ばれる地域に位置しエチオピアやソマリアと隣接します。人口は約100万人で大分県内の人口より少ないとても小さな国です。7月、8月は気温40度を超えます。ジブチには日本の自衛隊にとって唯一の海外拠点があるため、日本のニュースで目にするところがあるかもしれません。公用語はフランス語とアラビア語で、派遣前訓練ではフランス語を学びました。

続いて活動について紹介します。私の配属先はCaritasという慈善団体（写真①）で、主にストリー

トチルドレンや貧困家庭の子どもを対象に、衣食と医療を提供したり、さまざまなアクティビティを行っています。施設利用者は一日平均80人で、大半は隣国のエチオピアのオロモ族の子ども達で、彼らは様々な理由で家族と離れ、路上で生活しています。



写真② ジブチ料理「インジェラ」

配属先は土曜～木曜日に開所しており、子ども達には朝食と昼食を提供します。写真②はある日の昼食で、「インジェラ」と呼ばれるエチオピアの主食です。発酵している酸味の効いた生地、ソース、卵や鶏肉を混ぜて食べます。私もいただきましたが、とても美味しかったです。

私の職種は青少年活動で、子ども達の自立につながる活動を展開していきます。今は週5日配属先で子ども達と一緒に過ごしています。一緒にバスケットやサッカーをしたり、塗り絵や計算問題をしたり…（写真③④）。とにかく子ども達と一緒に時間を過ごして関係構築を図りつつ、今後の活動方針を模索しているところです。子ども同士では、石の投げ合いや掴み合いの喧嘩が頻繁に起こり、また誰かが遊具を独り占めしてしまい遊びが中断するという状況もよく見かけます。子ども達の協調性を引き出すために自分に何ができるのか、考える毎日です。

ちなみにエチオピアから来た子どもの多くは、民族の言語であるオロモ語を使います。英語やフラン



写真① 配属のCaritas（慈善団体）

ス語はほぼ通じず、私は日々ジェスチャーと簡単な単語で何とか意思疎通を図っています。最近はこちらも達からオロモ語を教わり、簡単な挨拶は言えるようになりました。難しい環境で生活している彼らですが、本当に優しい子が多く、私が困っていると自

発的に助けてくれたり、「サキも食べて！」と昼食を分けてくれたりします。彼らの優しさで心が温まります。そんな素敵な子ども達のために、今後具体的に活動を展開していきます。

アフリカの地で日々色々なことを感じながら過ごしています。子ども達のために少しでもプラスになるような活動をしていきたいです。



写真③④ 配属先で子ども達と

## 2021年度後半 行事報告

### 国際交流BBQ大会

8月に予定していた夏休み親子BBQ大会が、コロナ第5波の影響で延期され、令和3年10月17日(日)に開催することとなりました。もともと「夏休みの宿題」がまだ終わっていないお父さん、お母さん会員の参加を期待しての開催でしたが、日程が変わったことで、趣旨が「夏休み」より国際交流に重きを置くようになり、会員やその家族・友人が、在県の外国人の方々と交流する場になりました。

当日は、朝から、指導役のインドネシア人技能実習生と当会理事が調理会場である日出町西の二区公民館に集まり、インドネシア料理であるサティアヤ



一緒にインドネシア料理の下準備



各国料理を楽しむ



子供たちは一緒にバスケット

ム（焼き鳥）とレンダン（牛肉の煮込み）を作りました。サティは皆で手分けして串に刺しました。また、レンダンは煮込みに時間がかかるので、途中まで作って、残りはBBQ会場で煮込みました。本会会員の元料理隊員調理のジャークチキン（ジャマイカ風焼き鳥）、スリランカスパイスチキン、パリッパワデ（スリランカのレンズマメの揚げ物）、ピリヤニ（南インドの炊き込みご飯）の他、ガイヤーン（タイ風焼き鳥）、トートマンブラー（タイ風さつま揚げ）、クルクップ（インドネシアのえびせん）と様々な国の料理も出品され、インドネシアの他、ベトナム、ニュージーランド等いろいろな国の出身者が一緒になって舌鼓を打ちました。おなか一杯食べた後は、皆それぞれで海浜公園の自然を楽しみました。子供たちが、一緒になってバスケットボールに興じている姿が印象的でした。



アンザッククッキーの販売

ビーの販売を行いました。アンザック・クッキーとは、昔、ニュージーランドで、従軍する兵士が栄養不足にならないように、すべての栄養素をビスケットに入れてしまおうと作られたクッキーで、クランベリー、レーズン、オートミーツ等が入れてあります。クッキーは前日にコンパルホールの調理実習室で焼き、コーヒーは当日に豆から挽いて淹れました。また、当日は買ってくれたお客さんに、駄菓子の景品が当たる「国際クイズ」をして会場を盛り上げました。チェンマイコーヒーの張り出しの隅に描かれたタイ国国旗に興味をもって声をかけてきたタイ人留学生を始めとする、いろいろな国からの外国人、将来協力隊に参加したいと思っている高校生、県外から来た協力隊OB等いろいろな人との交流を楽しむことができました。

## ワールドフェスタ

大分市とJICA九州は、10月6日の「国際協力の日」にちなみ、10月の1か月間を「おおいた国際協力啓発月間」と定めていて、そのメインイベントとして、毎年、「おおいたワールドフェスタ」が開催されています。令和3年10月30日、大分市のお部屋ラボ祝祭の広場で開催された今年のワールドフェスタにも当会から出店して、ニュージーランドのアンザック・クッキーとタイ・チェンマイの有機コー



前日からクッキーを焼く

### クイズ

Q. これらのうち正しいフィリピンの国旗はどれでしょう？



A. Aは通常掲揚されるフィリピンの国旗。Bは戦争の時に掲げられるフィリピンの国旗。（戦争の時には、天地を逆にして「勇気」「愛国心」を表す『赤』を上にして強調する）従って、どちらも正しいフィリピンの国旗。

## OB / OG は今

### 日本人シェフによるスリランカ料理コンテスト

平成28年度2次隊 スリランカ 料理 **藤本 俊明**

令和4年1月23日(日)に東京都中央区築地で開催された「日本人シェフによるスリランカ料理コンテ

スト」にチャレンジしてきました。この大会はスリランカ人シェフが主催し、スリランカ大使館がメイ

スポンサーとなり行われるもので、前年10月に申し込み、写真・書類審査に勝ち抜いた、全国から集まった腕自慢のシェフ50名が、決勝戦進出をかけて競うものです。ルールは1組10名に分けられた各競技者が1時間の制限時間内に、料理を完成させるというもので、調理道具の持ち込みは可であるが、事前の下ごしらえ等は認められないというものでした。

試合当日ですが、予想してはいましたがやはり全国のスリランカ料理店をしている方の参加が多く、他の多くの人たちはカレー&ライスも持ち込んでくると予想し、それ以外を出そうと思い、スリランカにいたときに毎朝のように食べていた米粉の麺を蒸したスリランカ料理のインディアアップパをメインに据え、それに合わせシンハラ地域のチキンカレーとタミル地域のえびカレーをつけ汁に、さらにルヌミス（玉ねぎと唐辛子の和え物）、三つ葉のサンボ

ル（ふりかけ）、ボル（ココナッツ）サンボルを付け合わせとして添えました。

数日後、決勝進出者の通知が来るのですが、今回は残念ながら決勝進出はなりませんでしたが、写真で他の参加者の作品を見ましたが同じ料理を選択した人は一人のようで読みはあっていましたが、見た目や味にもう一工夫できればという反省点が残りました。

準決勝のダイジェストはYOUTUBEで公開されていますが、決勝はBSで放送するという案内を受けていたのですが、春頃からのニュース等でも知られているように決勝までの間にスリランカの国自体が経済破綻してしまったため決勝戦自体が今も行われていませんが、もし次回があれば、決勝進出、優勝を目指しさらに挑戦してみたいと思います。



会場の様子



出品した作品

## 行事報告

2022年

4月	協力隊ナビ（13日）	iichiko総合文化センター 1階	※コロナウイルスの影響により中止
5月	協力隊ナビ（11日）		iichiko総合文化センター 1階
	2022年度 大分県青年海外協力協会 総会（29日）		ホルトホール407会議室
6月	協力隊ナビ（8日）		iichiko総合文化センター 1階
7月	協力隊ナビ（13日）		iichiko総合文化センター 1階
8月	協力隊ナビ（10日）	iichiko総合文化センター 1階	※コロナウイルスの影響により中止
	野外BBQ大会（21日）		日出町系が浜海浜公園

※協力隊ナビとは？

毎月第2水曜日18:00～20:00、iichiko総合文化センター 1階で行なっているJICA海外協力隊員OBOGによる個別相談会です。予約は不要、無料で行なっています。お近くにお寄りの際は是非お立ち寄り下さい。懐かしいメンバーや未来の協力隊員達に会えるかも知れません。『海外協力隊』のノボリが目印です！

## 今後の行事予定

2022年

9月	協力隊ナビ（14日） 会報「ぶんごわ〜るど」70号 発行	iichiko総合文化センター 1階
10月	協力隊ナビ（12日）	iichiko総合文化センター 1階
11月	おおいたワールドフェスタ2022 ブース出店（協力隊ナビ併設）（5日） お部屋ラボ 祝祭の広場	
12月	協力隊ナビ（12日）	iichiko総合文化センター 1階

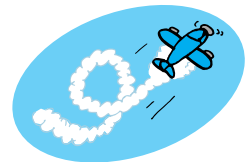
2023年

1月	協力隊ナビ	iichiko総合文化センター 1階
2月	国際交流バドミントン・調理会（5日）	コンパルホール体育館・調理実習室
	協力隊ナビ	iichiko総合文化センター 1階
3月	協力隊ナビ	iichiko総合文化センター 1階

11月5日(土)のおおいたワールドフェスタでは、スリランカ風パンケーキとチェンマイコーヒーを出品する予定です。皆さんの参加・来店をお待ちしております。

## 派遣隊員

2019年度 3次隊（2022年5月再派遣） ジブチ 青少年活動 久寿米木 咲季



## JICA海外協力隊とは？

JICA海外協力隊事業は、独立行政法人国際協力機構（JICA）が実施する国の事業で、1965年の発足以来、開発途上国からの要請に基づき、累計で55,353名、大分県からは累計618名（2022年9月1日現在）の協力隊員が派遣されてきました。2020年3月には新型コロナウイルス感染症拡大の影響で全世界より約2,000名の協力隊員が一斉に一時帰国となりましたが、2020年11月より派遣が再開され、現在は57か国にて598名（2022年9月1日現在）の隊員が現地の人々と共に課題解決に取り組んでいます。

協力隊の派遣職種は190以上あります。募集区分は「一般案件」と「シニア案件」があり、「シニア案件」では一定以上の経験・技能等が求められます。「一般案件」では、20～45歳の方は青年海外協力隊/日系社会青年海外協力隊、46～69歳の方は海外協力隊/日系社会海外協力隊、「シニア案件」では、20～69歳の方がシニア海外協力隊/日系社会シニア海外協力隊に応募可能です。『JICA海外協力隊』を協力隊員の総称としています。

隊員の募集は、春募集・秋募集の年2回、行っています。2022年秋募集（長期派遣）の応募期間は2022年11月1日(火)から2022年12月12日(月)までの6週間、予定されています！詳細は「JICA海外協力隊」公式HPに随時掲載される最新情報をご覧ください。また、地域のJICA窓口である、JICAデスク大分（Tel：097-533-4021）では応募相談を随時実施中です。場所はiichiko総合文化センター（大分市高砂町2-33）の地下1階、おおいた国際交流プラザ内に配置されています。どうぞお気軽にお立ち寄りください♪

（文責：JICAデスク大分・井本）

大分県青年海外協力協会 会報  
『ぶんごわ〜るど』  
令和4年10月発行 第70号

発行：大分県青年海外協力協会  
URL：<https://www.facebook.com/協力隊ナビ大分県-383808184980666/>

★皆さまのご意見・ご感想、お便りをお待ちしています。  
★会報では、『OB/OGは今？』のインタビューを受けて下さる方を募集しています。自薦他薦問いません。

～いずれも問い合わせは上記URLまで～

## 編集後記

娘が通う高校の図書室で「ルソンの霧」という本を見つけた。読んでみたら、学徒出陣でフィリピンに派遣された著者（裏表紙にサインが書いてあったので、高校のOBと思われる）の、飢えと病気に苦しめられた壮絶な経験が綴られている。その中で時々現地人との交流もあり、カタカナで書かれたタガログ語も出てくる。同じフィリピンへの派遣でも、平和な時代に協力隊員として派遣された自分は幸福だと思う。一方、世界のどこかで戦争は続く。

人類はいつまでこんな愚かなことをするのだろうか？

昭和63年度 2次隊 長岡 健朗（フィリピン 獣医師）